

NPO 法人人間中心設計推進機構認定
人間中心設計専門家・スペシャリスト
現状調査報告書
第 1 版

2014 年 10 月
NPO 法人人間中心設計推進機構
専門家認定委員会

目 次

1. 調査概要	3
2. 結果概要	3
3. 業種・従業員規模	4
4. 職種・役職	5
5. 勤続年数・年代	6
6. 専門家資格取得動機	6
7. 専門家資格取得による変化	7
8. 専門資格の名刺肩書きへの表記	8
9. 専門スキルの獲得方法	9
10. HCD-Net の教育関連イベントへの要望	9
11. 現状で得意な専門スキル	10
12. 獲得したい専門スキル	11
13. 業界での HCD の認知度と課題	12
14. 社内・クライアントの HCD の認知度	12
15. HCD 活動の実践度	13
16. 実践上の課題・阻害要因	13
17. 認定制度への要望	14
1) コンピタンスマップ	14
2) 試験制度	14
3) 更新制度	14
18. 認定専門家・スペシャリストとしての課題	14
19. 認定専門家・スペシャリストのコミュニティの活性化	14
巻末 質問項目	

1. 調査概要

1) 目的

NPO 法人人間中心設計推進機構（以下 HCD-Net と表現）では 2009 年より HCD 専門家の資格認定を実施しており、これまでに専門家として 351 名、2013 年度から始めたスペシャリストとして 53 名が認定されている。

今回初めて、専門家・スペシャリストにおける現状の実態・要望を把握することで、今後の専門家・スペシャリストへの施策（教育、イベントなど）や専門資格認定制度の改善などに活用するために調査を実施した。

2) 対象者

2014 年 5 月時点での HCD-Net 認定専門家・認定スペシャリスト

3) 調査方法

Web によるアンケート調査

4) 実施時期

2014 年 8 月

5) 回答者数・回答率

専門家 195 名 回答率 56%

スペシャリスト 26 名 回答率 49%

合計 221 名 回答率 55%

6) 質問内容

巻末の質問紙を参照のこと

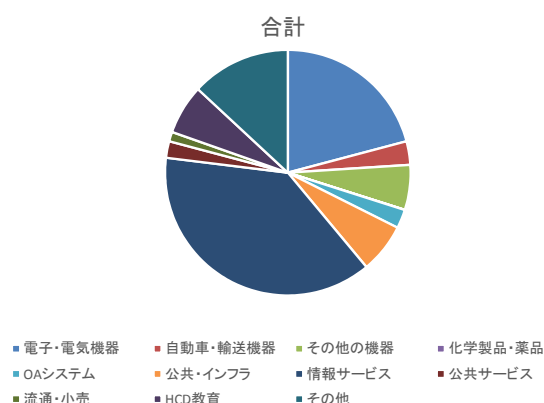
2. 結果概要

業種としては情報サービスが一番多く、専門家・スペシャリストとも 30 代を中心とする世代であり、課長クラス以下が大半を占める。主に業務上の必要性から受験をし、認定後は関係者からの認知も進んだ。大半は名刺に肩書きとして表記しているが、HCD という名称、内容の理解は社内外ともまだ余り進んでいないのが現状である。専門スキルの習得は独学が多いが、HCD-Net の関連イベントへの期待も大きい。現状は、ユーザビリティ評価や Web 制作に関するスキルが高く、今後基礎となる周辺知識の獲得やビジネススキルの向上を目指している。

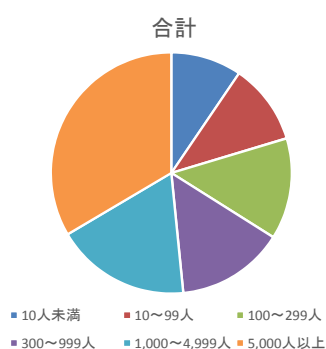
社内、クライアント、業界での HCD/UXD に関する認知はまだまだの状態、専門人材だけでなく、この分野を理解するマネージャーの不足もあり実践も一部にとどまっていると考えている。この状況は、投資対効果を示すなど説得力のある方法で何とかしたいと考えている。現状の認定制度に関しては、コンピタンスマップの定義がまだ不十分なことと、記述書の量の多さと書きにくさを多くの専門家・スペシャリストが指摘している。更新制度は周知されていない部分があり、地方でのイベント開催など地域格差の解消を求めている。また、専門家・スペシャリスト間の積極的な交流の場の実現を希望している。

今回は、専門家・スペシャリストに対する初めての实態調査であったが、今後定期的に実態調査を行うことで経時的な変化を追って行きたい。また、今回のデータをもとにしたクロス集計による分析は第 2 版以降に譲る。

3. 業種・従業員規模



設問番号	設問内容	回答項目	合計
1	あなたの業種は何ですか？（複数回答あり）	電子・電気機器	67
		自動車・輸送機器	10
		その他の機器	19
		化学製品・薬品	0
		OAシステム	8
		公共・インフラ	21
		情報サービス	122
		公共サービス	7
		流通・小売	4
		HCD教育	21
		その他	42

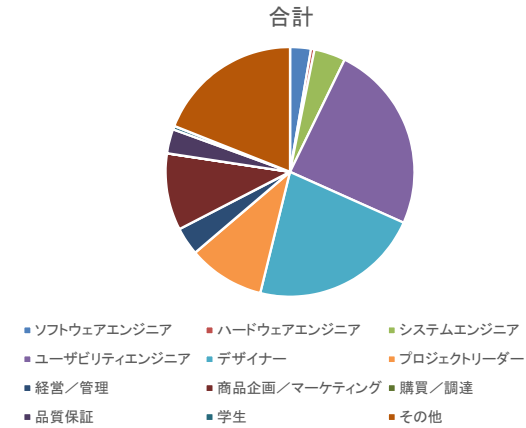


設問番号	設問内容	回答項目	合計
2	あなたの会社の従業員規模はどのくらいですか？	10人未満	21
		10～99人	24
		100～299人	30
		300～999人	32
		1,000～4,999人	40
		5,000人以上	74

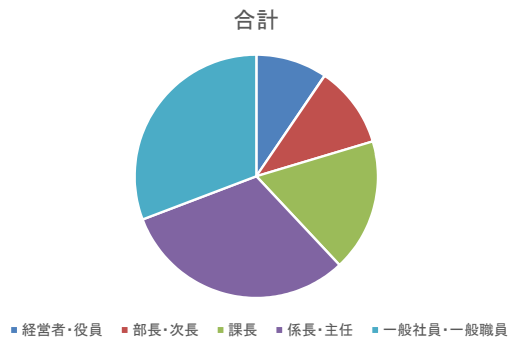
業種は、情報サービス分野がほぼ半数を占める。この情報サービス分野には、システム開発、Web、スマホアプリなどの業種が含まれており、この分野の HCD-Net の会員がここ数年増え専門家として受験数も増加している結果と思われる。専門家、スペシャリストでの差はほとんどない。現状は情報サービスとひとくくりにしてしまっているが、今後細分化が必要であろう。

従業員規模は、複数人の専門家・スペシャリストを有する大企業が多いが、10人未満まで幅広い企業規模になっている。

4. 職種・役職



設問番号	設問内容	回答項目	合計
3	あなたの職種は何ですか？	ソフトウェアエンジニア	6
		ハードウェアエンジニア	1
		システムエンジニア	9
		ユーザビリティエンジニア	54
		デザイナー	49
		プロジェクトリーダー	22
		経営/管理	8
		商品企画/マーケティング	22
		購買/調達	0
		品質保証	7
		学生	1
		その他	42

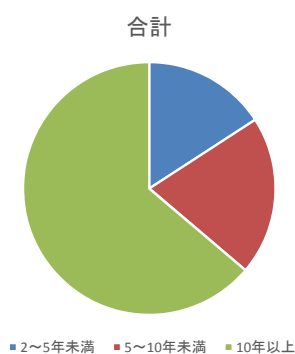


設問番号	設問内容	回答項目	合計
4	あなたの役職(クラス)は？	経営者・役員	21
		部長・次長	24
		課長	39
		係長・主任	69
		一般社員・一般職員	68

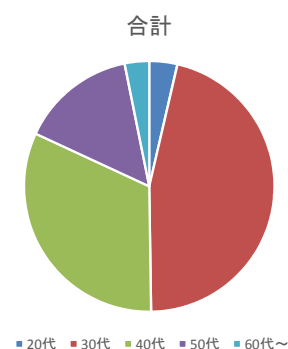
職種では、ユーザビリティエンジニアとデザイナーがそれぞれ約1/4を占めている。続いて多いのは、プロジェクトリーダー、商品企画/マーケティングである。ユーザビリティエンジニアの比率が高いのは、専門家試験の初期はユーザビリティエンジニアのコンピタンスに重きを置いていたことや、元々ユーザビリティ関連の実務に就いていた専門家が多いことと思われる。専門家とスペシャリストでは、違いは少ないがスペシャリストではデザイナーの比率が高かった。なお、ハードウェアエンジニアは一人しかいない。

役職では、一般から係長クラスが半分を占める。その比率はスペシャリストではさらに高くなる。比較的規模の小さい企業の専門家は役員クラスが多いものと思われる。

5. 勤続年数・年代



設問番号	設問内容	回答項目	合計	うち、HCD関連業務実践年数
5	あなたの勤続年数は？	2～5年未満	35	
		5～10年未満	45	
		10年以上	141	10.6

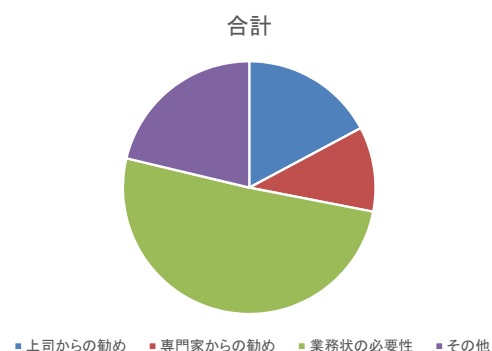


設問番号	設問内容	回答項目	合計
6	あなたの年代は	20代	8
		30代	102
		40代	71
		50代	33
		60代～	7

勤続年数は、半数以上が 10 年以上で HCD 関連業務は当然のことだが、専門家のほうが長くなっている。

年代は、30 代がトップであり、次に 40 代となっており、20 代の専門家もいる。スペシャリストは全体的にさらに若い年代分布になっている。

6. 専門家資格取得動機

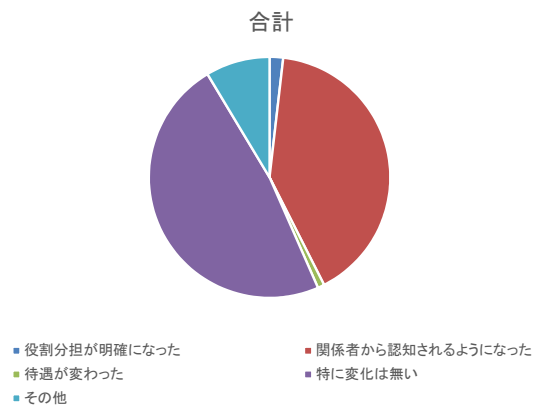


設問番号	設問内容	回答項目	合計
7	専門家・スペシャリスト受験動機（自由記述有り）	上司からの勧め	38
		専門家からの勧め	24
		業務上の必要性	112
		その他	47

取得動機は業務上の必要性からが一番多いが、上司からの勧めもけっこうある。スペシャリストは上司よりも専門家からの勧めが多くなっている。

自由記述では、自分のスキル（専門性）のレベル確認のためが多く見受けられ、キャリアパスや転職のことを考えて資格を取得した方もいる。

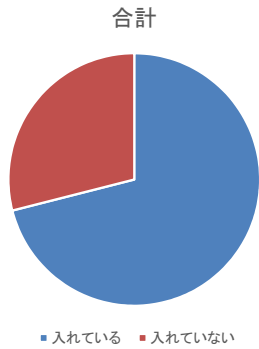
7. 専門家資格取得による変化



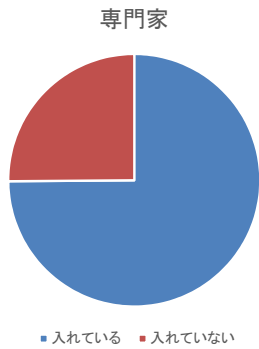
設問番号	設問内容	回答項目	合計
8	合格前と合格後の変化はありましたか？	役割分担が明確になった	4
		関係者から認知されるようになった	90
		待遇が変わった	2
		特に変化は無い	106
		その他	19

「特に変化はない」という回答が多いが、やはり「関係者から認知されるようになった」が半数近くいる。後述する名刺への肩書きの表記などから、業務上話題になることが多くなったことや、本人の意識が変わってことなどを挙げる専門家も多くいる。認知に関しては、本人や企業の力だけではなく、HCD-Net としても社会的な認知をどのように挙げていくかが問われている。

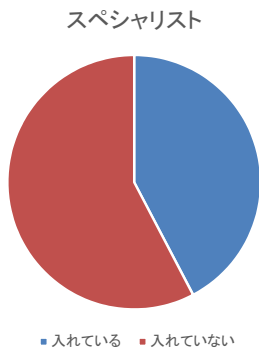
8. 専門資格の名刺肩書きへの表記



設問番号	設問内容	回答項目	合計
9	名刺に専門家の肩書きを 記入していますか(記入してい	記入している	157
		記入していない	64



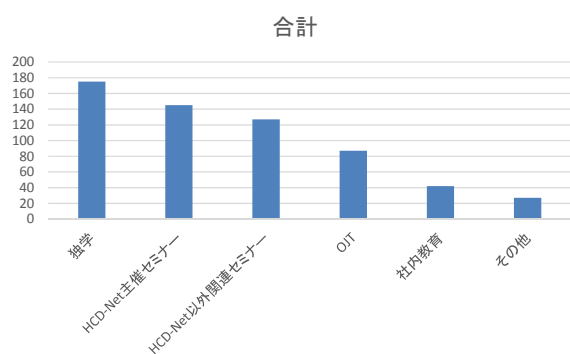
設問番号	設問内容	回答項目	専門家
9	名刺に専門家の肩書きを 記入していますか(記入してい	記入している	146
		記入していない	49



設問番号	設問内容	回答項目	スペシャリスト
9	名刺に専門家の肩書きを 記入していますか(記入してい	記入している	11
		記入していない	15

約 3/4 の専門家が、半数近くのスペシャリストが名刺に専門資格を表記している。表記していない理由として一番多いのは、社内の規則上表記できないことが挙げられる。また、表記するメリットがない、必要性を感じない、スペシャリストの場合は専門家資格を取得したら表記すると言う意見もある。

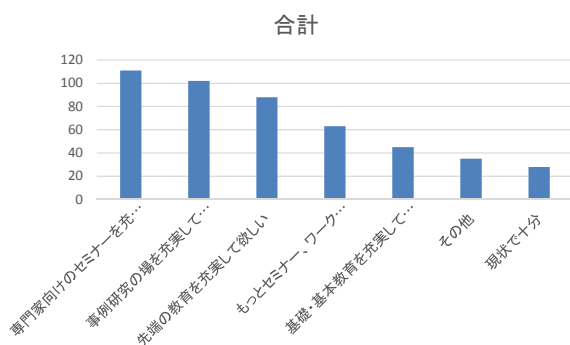
9. 専門スキルの獲得方法



設問番号	設問内容	回答項目	合計
10	日常の専門スキル獲得方法はどのようにしていますか？	独学	175
		HCD-Net主催セミナー	145
		HCD-Net以外関連セミナー	127
		OJT	87
		社内教育	42
		その他	27

専門家、スペシャリスト問わず独学で専門スキルを獲得している人が一番多い、この傾向はスペシャリストのほうが強い。後は、HCD-Net や関連セミナーでのスキル獲得が続く。その他では、知識はともかくもスキルそのものは実践を通じてしか獲得できないのではないかという意見もある。

10. HCD-Net の教育関連イベントへの要望



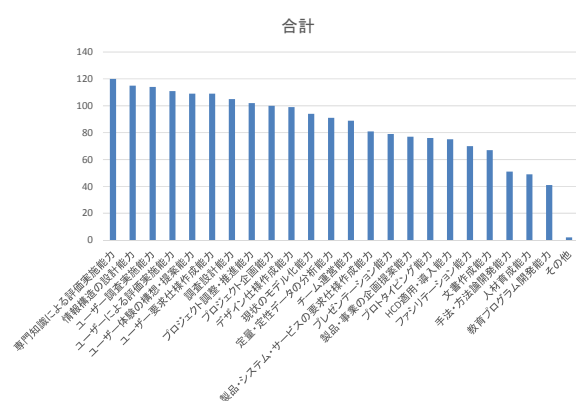
設問番号	設問内容	回答項目	合計
11	現状のHCD-Netの教育関連イベントに関する要望はございますか？	専門家向けのセミナーを充実させて欲しい	111
		事例研究の場を充実させて欲しい	102
		先端の教育を充実させて欲しい	88
		もっとセミナー、ワークショップを充実させて欲しい	63
		基礎・基本教育を充実させて欲しい	45
		その他	35
		現状で十分	28

専門家もスペシャリストも半数以上が専門家向けのセミナー・ワークショップを充実させて欲しいと考えている。また、企業に属する人が多いことから、企業の実践事例に関する研究の場を求める声も多い。

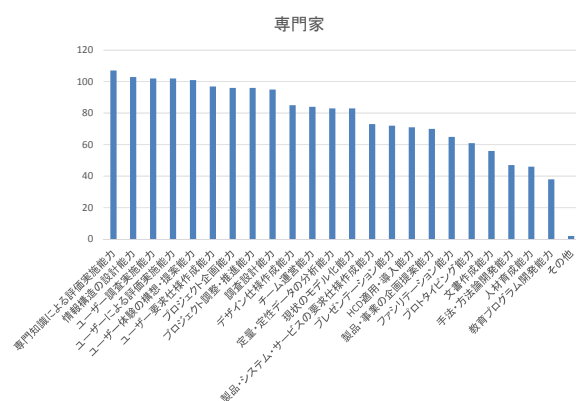
自由記述では、地方でのセミナー、イベントの拡充をはじめ、夜間、休日ではなく、地方からの参加も考えると昼間のイベント開催が望まれている。さらに、地域格差をなくすためにオンラインセミナーや動画配信など実施方法の工夫をして欲しいとの意見もある。

また、コアコンピタンスに示されている各スキルに関して体系的に学びたいという要望や、HCD の歴史や人間工学、認知工学など基礎的な知識を習得したいという意見も多くある。現状のイベントのほとんどは有料であるが、無料のイベントを望む人もいる。

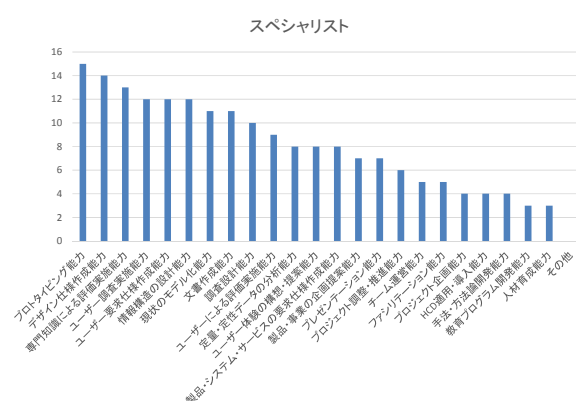
1 1．現状で得意な専門スキル



設問番号	設問内容	回答項目	合計
12	あなたの得意分野(スキル)は何ですか？	専門知識による評価実施能力	120
		情報構造の設計能力	115
		ユーザー調査実施能力	114
		ユーザーによる評価実施能力	111
		ユーザー体験の構想・提案能力	109
		ユーザー要求仕様作成能力	109
		調査設計能力	105
		プロジェクト調整・推進能力	102
		プロジェクト企画能力	100
		デザイン仕様作成能力	99
		現状のモデル化能力	94
		定量・定性データの分析能力	91
		チーム運営能力	89
		製品・システム・サービスの要求仕様作成能力	81
		プレゼンテーション能力	79
		製品・事業の企画提案能力	77
		プロトタイピング能力	76
		HCD適用・導入能力	75
		ファシリテーション能力	70
		文書作成能力	67
		手法・方法論開発能力	51
		人材育成能力	49
		教育プログラム開発能力	41
		その他	2



設問番号	設問内容	回答項目	専門家
12	あなたの得意分野(スキル)は何ですか？	専門知識による評価実施能力	107
		情報構造の設計能力	103
		ユーザー調査実施能力	102
		ユーザーによる評価実施能力	102
		ユーザー体験の構想・提案能力	101
		ユーザー要求仕様作成能力	97
		プロジェクト企画能力	96
		プロジェクト調整・推進能力	96
		調査設計能力	95
		デザイン仕様作成能力	85
		チーム運営能力	84
		定量・定性データの分析能力	83
		現状のモデル化能力	83
		製品・システム・サービスの要求仕様作成能力	73
		プレゼンテーション能力	72
		HCD適用・導入能力	71
		製品・事業の企画提案能力	70
		ファシリテーション能力	65
		プロトタイピング能力	61
		文書作成能力	56
		手法・方法論開発能力	47
		人材育成能力	46
		教育プログラム開発能力	38
		その他	2

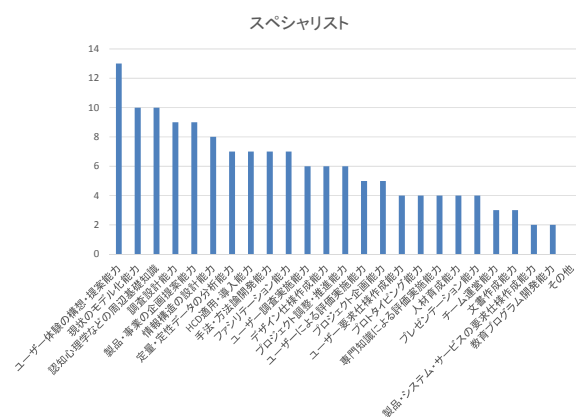
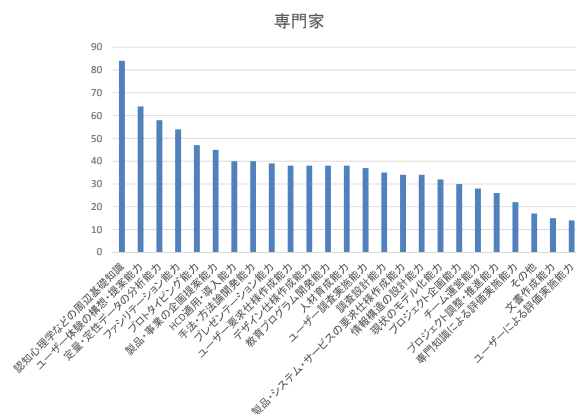
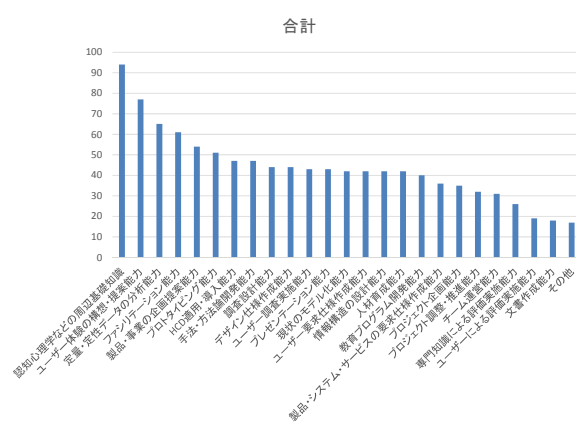


設問番号	設問内容	回答項目	スペシャリスト
12	あなたの得意分野(スキル)は何ですか？	プロトタイピング能力	15
		デザイン仕様作成能力	14
		専門知識による評価実施能力	13
		ユーザー調査実施能力	12
		ユーザーによる評価実施能力	12
		ユーザー体験の構想・提案能力	12
		ユーザー要求仕様作成能力	12
		情報構造の設計能力	12
		現状のモデル化能力	11
		文書作成能力	11
		調査設計能力	10
		ユーザーによる評価実施能力	9
		定量・定性データの分析能力	8
		ユーザー体験の構想・提案能力	8
		製品・システム・サービスの要求仕様作成能力	8
		製品・事業の企画提案能力	7
		プレゼンテーション能力	7
		プロジェクト調整・推進能力	6
		チーム運営能力	5
		ファシリテーション能力	5
		プロジェクト企画能力	5
		HCD適用・導入能力	4
		手法・方法論開発能力	4
		教育プログラム開発能力	3
		人材育成能力	3
		その他	0

専門家では、専門知識やユーザーによる評価、情報構造の設計やユーザー体験の構想・提案力などが得意なスキルの上位にきている。また、ユーザー調査の実施も得意な分野とされている。専門家では、立場上からさらにプロジェクトマネジメント関連の項目も得意分野になっている。これは、現在の専門家の構成を考えると、初期のユーザビリティエンジニアリングを核とした認定者、最近の Web 関連の認定者の多さなどに起因する。

一方、スペシャリストは構成比率においてデザイナーが多いこともあって、プロトタイピングやデザイン仕様作成能力が得意分野の上位にある。

12. 獲得したい専門スキル



設問番号	設問内容	回答項目	合計
13	もっと学びたい分野、テーマは何ですか？	認知心理学などの周辺基礎知識	94
		ユーザー体験の構想・提案能力	77
		定量・定性データの分析能力	65
		ファシリテーション能力	61
		製品・事業の企画提案能力	54
		プロトタイピング能力	51
		HCD適用・導入能力	47
		手法・方法論開発能力	47
		調査設計能力	44
		デザイン仕様作成能力	44
		ユーザー調査実施能力	43
		プレゼンテーション能力	43
		現状のモデル化能力	42
		ユーザー要求仕様作成能力	42
		情報構造の設計能力	42
		人材育成能力	42
		教育プログラム開発能力	40
		製品・システム・サービスの要求仕様作成能力	36
		プロジェクト企画能力	35
		プロジェクト調整・推進能力	32
		チーム運営能力	31
		専門知識による評価実施能力	26
		ユーザーによる評価実施能力	19
		文書作成能力	18
		その他	17

設問番号	設問内容	回答項目	専門家
13	もっと学びたい分野、テーマは何ですか？	認知心理学などの周辺基礎知識	84
		ユーザー体験の構想・提案能力	64
		定量・定性データの分析能力	58
		ファシリテーション能力	54
		プロトタイピング能力	47
		製品・事業の企画提案能力	45
		HCD適用・導入能力	40
		手法・方法論開発能力	40
		プレゼンテーション能力	39
		ユーザー要求仕様作成能力	38
		デザイン仕様作成能力	38
		教育プログラム開発能力	38
		人材育成能力	38
		ユーザー調査実施能力	37
		調査設計能力	35
		製品・システム・サービスの要求仕様作成能力	34
		情報構造の設計能力	34
		現状のモデル化能力	32
		プロジェクト企画能力	30
		プロジェクト調整・推進能力	28
		チーム運営能力	26
		専門知識による評価実施能力	22
		その他	17
		文書作成能力	15
		ユーザーによる評価実施能力	14

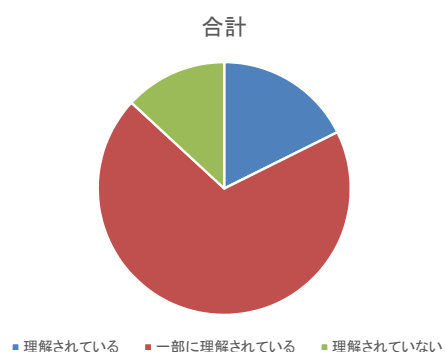
設問番号	設問内容	回答項目	スペシャリスト
13	もっと学びたい分野、テーマは何ですか？	ユーザー体験の構想・提案能力	13
		現状のモデル化能力	10
		認知心理学などの周辺基礎知識	10
		調査設計能力	9
		製品・事業の企画提案能力	9
		情報構造の設計能力	8
		定量・定性データの分析能力	7
		HCD適用・導入能力	7
		手法・方法論開発能力	7
		ファシリテーション能力	7
		ユーザー調査実施能力	6
		デザイン仕様作成能力	6
		プロジェクト調整・推進能力	6
		ユーザーによる評価実施能力	5
		プロジェクト企画能力	5
		ユーザー要求仕様作成能力	4
		プロトタイピング能力	4
		専門知識による評価実施能力	4
		人材育成能力	4
		プレゼンテーション能力	4
		チーム運営能力	3
		文書作成能力	3
		製品・システム・サービスの要求仕様作成能力	2
		教育プログラム開発能力	2
		その他	0

専門家では、認知心理学などの周辺基礎知識がトップである。また、プロジェクトリーダ的な人が多いことからファシリテーション能力が上位に来ている。また、自由記述では立場上経営層への認知、ROIなどのビジネススキル向上を望んでいる。

それに比べ、スペシャリストの場合は、最近のユーザーエクスペリエンスデザインの潮流に対応し、ユーザー体験の構想・提案力、現状のモデル化能力を獲得したいと考えている。

さらに、教育関連イベントの項でも触れたが専門スキル向上に関するイベントとして、基礎的・周知的な知識に関わるものが必要であるとの回答も多い。

1 3. 業界での HCD の認知度と課題

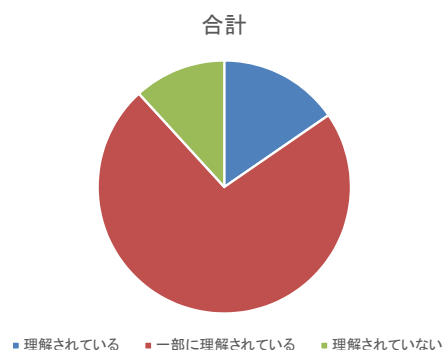


設問番号	設問内容	回答項目	合計
14	所属する業界内でのHCDの認知度、課題は何ですか？	理解されている	39
		一部に理解されている	153
		理解されていない	29

専門家・スペシャリストとも同じような傾向で、一部理解されている回答が一番多い。課題に関する自由記述での意見として一番多かったのは、費用対効果や ROI など数値化の難しさを指摘する声が多い。また、HCD、UXD という言葉自体に関する理解の低さを多くの専門家・スペシャリストが課題として捉えている。具体的には HCD、UXD という言葉が先行してしまっているが、具体的に何ができるか、どんな効果があるのかが、社内・クライアント先でまだ十分理解されていないため、期待は大きいが見合う対価、評価が得られないということもある。

また、今回は比較的大きな企業に属する専門家・スペシャリストからの回答が多いため、社内の関連部署特にエンジニア部門への理解や協業が難しいという現状も指摘されている。スペシャリストも似たような課題を挙げているが、専門家に比べ立場上の違いからか費用対効果に関わる課題はほとんど見られなかった。

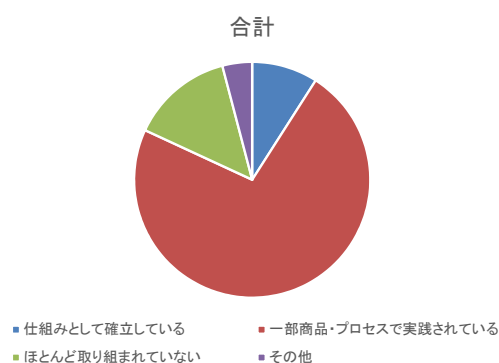
1 4. 社内・クライアントの HCD の認知度



設問番号	設問内容	回答項目	合計
15	会社内、クライアント先でのHCD活動の認知度はいかがですか？	理解されている	34
		一部に理解されている	161
		理解されていない	26

スペシャリストの場合は「理解されている」がやや少ないが、ほぼ同じような結果である。この項目は、業界での認知度とほぼ同じ傾向である。

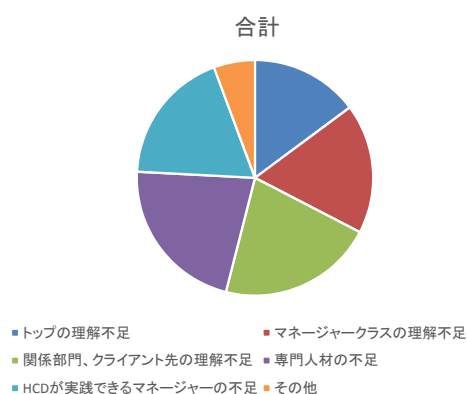
1 5．HCD 活動の実践度



設問番号	設問内容	回答項目	合計
16	会社内、クライアント先でのHCD活動の実践度はいかがですか？	仕組みとして確立している	20
		一部商品・プロセスで実践されている	61
		ほとんど取り組まれていない	31
		その他	9

全体の約 1 割が仕組みとして確立していると回答しているが、ほとんどはまだ部分的な実践にとどまっている。

1 6．実践上の課題・阻害要因



設問番号	設問内容	回答項目	合計
17	HCDプロセス実践上の困りごと・阻害要因は何ですか？	トップの理解不足	84
		マネージャークラスの理解不足	101
		関係部門、クライアント先の理解不足	121
		専門人材の不足	124
		HCDが実践できるマネージャーの不足	105
		その他	32

専門人材の不足もさることながら、マネージャーの不足を課題として上げている回答が多い。また、トップ・マネジメントクラスの理解不足も実践をする上での大きな阻害要因になっている。

その他や自由記述では、開発期間の短縮化や予算確保の難しさなどが散見される。専門家とスペシャリストには回答に差はない。

17. 認定制度への要望

1) コンピタンスマップ

個々のコンピタンスの定義がまだ不明確な部分があるとの指摘が多かった。また、表現がわかりにくく、網羅性はあるかも知れないが細分化しすぎではないかという意見もある。
ただ一方で、社内での評価にも活用できるなど人材育成のマップとしての価値を認める意見もある。

2) 試験制度

何しろ、記述量が多いことが一番の不評である。Excel のシートの書きにくさも多くの専門家・スペシャリストから指摘されている。

試験制度そのものも、現状の HCD/UXD が対象とする領域の広さから少し細分化して認定すべきとか、記述方式だけではなくプレゼンテーションや面接などと組み合わせたり、定量的に判断できる審査方法も取り入れたりすべきという提案もある。

審査方法も、書かれたものを読み取る審査だとどうしても審査員のスキルレベルによるばらつきが出てしまうので、結果への影響を心配されている。

受験方法も、e ラーニングにもとづく設問形式でも良いのではという意見がある。

不合格者へのフォローを求める声もいくつか見受けられた。

一方で、自分自身の業務、スキルの棚卸しができる良い機会となると言う意見もある。

3) 更新制度

ここで一番指摘が多かったのは、更新制度そのものの認知、周知がうまくできていないので、内容が正しく理解できなかったり、準備が間に合わなかったりすることである。具体的には、どのようなイベントがポイントになるのかがわかりにくい、現状自分が何ポイント獲得しているのかが分からない、もっと早めに更新の時期を知らせて欲しいなどである。

また、既に教育イベントの項でも述べているが、現状は地方での HCD-Net のイベントが少ないために、東京近郊以外の人にとって不利になるという意見もある。

更新時期は現状 3 年であるが、短いので長くすべきという指摘もいくつかある。

18. 認定専門家・スペシャリストとしての課題

HCD/UXD に関しての理解が十分進んでいない状況を何とかしたい、して欲しいという意見が多い。社会、業界内、社内いずれにおいても、もっと理解が進めばやりやすくなると考えている。その策として、HCD/UXD に関するよりわかりやすい説明の仕方や、既に述べたように HCD/UXD を実践することによる投資対効果を明確にして社内やクライアント先を説得することが挙げられている。

実践の場が少ない専門家・スペシャリストからはつつつ s、事例研究を積極的に勧めて欲しいという意見もある。

19. 認定専門家・スペシャリストのコミュニティの活性化

専門家・スペシャリスト同士情報交換の場を求める声が多数あり、方法として SNS の活用や SIG の活性化、専門家の集いなどの開催を求めている。

交流の内容としては、同じ業界セグメントでの交流、専門家としての実践成功事例紹介や HCD-Net 以外の団体の交流などが主な意見である。

また、何か困ったことがあったときにお互い相談できる場があるとよいという指摘もある。

◆調査項目

1. あなたの業種は何ですか？（複数回答あり）
☐A. 電子・電気機器 ☐B. 自動車・輸送機器 ☐C. その他の機器
☐D. 化学製品・薬品 ☐E. OA システム ☐F. 公共・インフラ
☐G. 情報サービス ☐H. 公共サービス ☐I. 流通・小売
☐J. HCD 教育 ☐K. その他（ ）
2. あなたの会社の従業員規模はどのくらいですか？
☐A. 10 人未満 ☐B. 10～99 人 ☐C. 100～299 人
☐D. 300～999 人 ☐E. 1,000～4,999 人 ☐F. 5,000 人以上
3. あなたの職種は何ですか？
☐A. ソフトウェアエンジニア ☐B. ハードウェアエンジニア ☐C. システムエンジニア
☐D. ユーザビリティエンジニア ☐E. デザイナー ☐F. プロジェクトリーダー
☐G. 経営／管理 ☐H. 商品企画／マーケティング ☐I. 購買／調達
☐J. 品質保証 ☐K. 学生（専攻： ）
☐L. その他（ ）
4. あなたの役職（クラス）は？
☐A. 経営者・役員 ☐B. 部長・次長 ☐C. 課長 ☐D. 係長・主任 ☐E. 一般社員・一般職員
5. あなたの勤続年数は？
☐A. 2～5 年未満 ☐B. 5～10 年未満 ☐C. 10 年以上
うち、HCD 関連業務実践年数（ ）年
6. あなたの年代は
☐A. 20 代 ☐B. 30 代 ☐C. 40 代 ☐D. 50 代 ☐E. 60 代～
7. 専門家・スペシャリスト受験動機（自由記述有り）
☐A. 上司からの勧め ☐B. 専門家からの勧め ☐C. 業務上の必要性
☐D. その他（ ）
8. 合格前と合格後の変化はありましたか？
☐A. 役割分担が明確になった ☐B. 関係者から認知されるようになった
☐C. 待遇が変わった ☐D. 特に変化は無い ☐E. その他（ ）
9. 名刺に専門家の肩書きを入れていますか（入れていない場合その理由は）？
☐A. 入れている ☐B. 入っていない（理由 ）
10. 日常の専門スキル獲得方法はどのようにしていますか？（複数回答あり）
☐A. 社内教育 ☐B. HCD-Net 主催セミナー ☐C. HCD-Net 以外関連セミナー
☐D. 独学 ☐E. OJT ☐F. その他（ ）
11. 現状の HCD-Net の教育関連イベントに関する要望はございますか？（複数回答あり）
☐A. 現状で十分 ☐B. もっとセミナー、ワークショップを開催して欲しい
☐C. 基礎・基本教育を充実して欲しい ☐D. 先端の教育を充実して欲しい
☐E. 専門家向けのセミナーを充実して欲しい ☐F. 事例研究の場を充実して欲しい
☐G. その他（ ）

12. あなたの得意分野（スキル）は何ですか？（複数回答あり）
☐ A 1. 調査設計能力 ☐ A 2. ユーザー調査実施能力 ☐ A 3. 定量・定性データの分析能力 ☐ A 4. 現状のモデル化能力 ☐ A 5. ユーザー体験の構想・提案能力
☐ A 6. ユーザー要求仕様作成能力 ☐ A 7. 製品・事業の企画提案能力 ☐ A 8. 製品・システム・サービスの要求仕様作成能力 ☐ A 9. デザイン仕様作成能力
☐ A10. 情報構造の設計能力 ☐ A11. プロトタイピング能力 ☐ A12. ユーザーによる評価実施能力 ☐ A13. 専門知識による評価実施能力
☐ B 1. プロジェクト企画能力 ☐ B 2. チーム運営能力
☐ B 3. プロジェクト調整・推進能力
☐ C 1. HCD 適用・導入能力 ☐ C 2. 教育プログラム開発能力 ☐ C 3. 人材育成能力
☐ C 4. 手法・方法論開発能力
☐ L 1. 文書作成能力 ☐ L 2. プレゼンテーション能力
☐ L 3. ファシリテーション能力 ☐ その他（ ）
13. もっと学びたい分野、テーマは何ですか？（複数回答あり）
☐ A 1. 調査設計能力 ☐ A 2. ユーザー調査実施能力 ☐ A 3. 定量・定性データの分析能力
☐ A 4. 現状のモデル化能力 ☐ A 5. ユーザー体験の構想・提案能力
☐ A 6. ユーザー要求仕様作成能力 ☐ A 7. 製品・事業の企画提案能力
☐ A 8. 製品・システム・サービスの要求仕様作成能力 ☐ A 9. デザイン仕様作成能力
☐ A10. 情報構造の設計能力 ☐ A11. プロトタイピング能力
☐ A12. ユーザーによる評価実施能力 ☐ A13. 専門知識による評価実施能力
☐ B 1. プロジェクト企画能力 ☐ B 2. チーム運営能力 ☐ B 3. プロジェクト調整・推進能力
☐ C 1. HCD 適用・導入能力 ☐ C 2. 教育プログラム開発能力 ☐ C 3. 人材育成能力
☐ C 4. 手法・方法論開発能力
☐ L 1. 文書作成能力 ☐ L 2. プレゼンテーション能力 ☐ L 3. ファシリテーション能力
☐ K 1. 認知心理学などの周辺基礎知識 ☐ その他（ ）
14. 所属する業界内での HCD の認知度、課題は何ですか？
☐ A. 理解されている ☐ B. 一部に理解されている ☐ C. 理解されていない
 課題（ ）
15. 会社内、クライアント先での HCD 活動の認知度はいかがですか？
☐ A. 理解されている ☐ B. 一部に理解されている ☐ C. 理解されていない
16. 会社内、クライアント先での HCD 活動の実践度はいかがですか？
☐ A. 仕組みとして確立している ☐ B. 一部商品・プロセスで実践されている
☐ C. ほとんど取り組まれていない ☐ D. その他（ ）
17. HCD プロセス実践上の困りごと・阻害要因は何ですか？（複数回答有り）
☐ A. トップの理解不足 ☐ B. マネージャークラスの理解不足
☐ C. 関係部門、クライアント先の理解不足 ☐ D. 専門人材の不足
☐ E. HCD が実践できるマネージャーの不足 ☐ F. その他（ ）
18. 認定制度（コンピタンスマップ・試験・更新制度）への要望はありますか？
 コンピタンスマップに関して（ ）
 認定試験に関して（ ）
 更新制度に関して（ ）
 その他（ ）
19. 認定専門家・スペシャリストとしての課題等がございますか？
 自由記述（ ）

20. 認定専門家・スペシャリストのコミュニティを活性化させるための意見やアイデアがございましたらご提案ください。
自由記述 ()
21. HCD-Net の活動に関してご要望はございますか？
自由記述 ()